

## 免疫

免疫の仕組みに異常が起きる病気で、最も多いのは慢性関節リウマチです。関節面を被う滑膜に慢性的な炎症が起こり、徐々に関節に接する骨に炎症が広がって骨が破壊され、関節が変形して、動きにくくなる（拘縮し可動性が失われる）病気です。

本来、免疫は細菌やウイルスなどの外敵から体を守る仕組みですが、自分の体の色んな組織を外敵と見誤って、免疫系がそれを攻撃することがあります。これを自己免疫病といいます。慢性関節リウマチは主に関節滑膜を敵とみなす自己免疫病で、患者の約80%で血液中にリウマチ因子と呼ばれる自己抗体が増えます。

### - 基準値表 -

| 項目           | 異常域(低) | 境界域(低) | 基準域  | 境界域(高)  | 異常域(高) |
|--------------|--------|--------|------|---------|--------|
| リウマチ因子(RF定量) |        |        | ~ 15 | 16 ~ 35 | 36 ~   |

### リウマチ因子 (RF定量)

リウマチ因子を検出する検査です。他の自己免疫病や肝臓病などでも陽性になることが多く、健康者でも数%が陽性になります。従って陽性でも慢性関節リウマチとは限りませんので、確定するにはさらに詳しい検査が必要です。

慢性関節リウマチ以外によく陽性になる病気には、全身性エリテマトーデス(SLE)、強皮症、多発性動脈炎、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、肺繊維症、細菌性心内膜炎など、発生頻度は低いものの、多くの病気があります。

### 疑われる病気や異常

### リウマチ因子 (RF定量)が 境界域、異常域の場合

- 慢性肝炎
  - 全身性エリテマトーデス(SLE)
  - 強皮症
  - 多発性動脈炎
  - 皮膚筋炎
  - シェーグレン症候群
  - 細菌性心内膜炎
  - 肺線維症
  - 関節リウマチ
- など